

# 保育心くあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本 律秀 編集者 楠野 吉弥



## vol.134 令和7年度 1号

理事長挨拶	2
保育士会会長挨拶	3
春の叙勲	4
就職フェアが10年目を迎えて	4

九州保育三団体研究大会	5
私の園の取り組み	6
編集後記	6



## 理事長挨拶

福岡市保育協会 理事長 増本 律秀



今年度より再度  
2年間、理事長を  
再任させていただ  
きました。どうぞ  
よろしくお願

いたします。今期も前期同様理事が大  
事に交代することになりましたが、新  
事の方々を適材適所各部に配属させ  
いただき大変心強く思っております。  
新理事一同、理事会の運営を強化し  
ながら一糸乱れず、一丸となって福岡  
保育協会の運営に尽力していこうと考  
えております。しかし、保育協会は会  
員お一人お一人が主役でありますの  
で、皆様よりご意見、ご要望等を頂  
きながら、協会が皆様の法人、施設運  
営にとってお役に立てるものにしてい  
きたいと思っております。

さらには、協会と関係の深い保育士  
会や青年部そして協会事務局の皆さん  
とも連携や信頼関係を深め、協会の事  
業を協力して運営しながら、次世代の  
リーダーを育成することにも目を向け  
ていきたいと思っております。そして、福岡  
市当局とも親密にコンセンサスをと  
りながら、これからの福岡市の保育運  
営について車の両輪として協力体制を  
より強化していきたいとも考えており  
ます。

さて、我が国の少子化は、過去最低  
の合計特殊出生率を更新し続け、人口  
減少による社会の持続性が危惧されて

います。このような中、こども大綱と  
未来戦略に基づく「加速化プラン」も  
2年が経ち、保育士配置の改善やこ  
ども誰でも通園制度（乳児等通園支  
援制度）の本格的実施等、様々な施策が同  
時並行的に進められています。これら  
「子どもまんなか社会」に向けた施策  
が、真にこどものためになるよう、保  
育現場からしっかりと声を上げ、対応  
していくことが重要です。

このような中、福岡市においては、  
行政当局と年2回の意見交換を行う中  
で問題提起されたことが実際に具現化  
したり、また、国の制度を導入するこ  
とにより、前年と比較してマイナスと  
なる分を市の方で補填するなど、色々  
な取り組みを講じていただいております。  
しかしながら、依然として困難な  
人材確保や更なる職員の処遇改善等、  
課題は山積しておりますので、行政当  
局と密に連携を取りながら、今年度も  
必要な対策に取り組んでいきたいと思  
います。

子どもの安心・安全を守ることはも  
ちろん、様々な保育をめぐる動向や、  
保育者に求められることを常に意識  
し、認識を深めるとともに、保育の社  
会的な意義・役割をあらためて確認し  
たうえで、各園におかれましては、  
日々の取り組みを充実させていただ  
きたいと思っております。  
今年度も福岡市保育協会の円滑、か  
つ充実した運営のために皆様のご協  
力をお願いいたします。

## 福岡市保育協会 理事会組織とメンバー

### 研修部



部長  
天野 恵・井上二三乃・安本祥子・高田和久・二宮庸輔

### 総務部



部長  
椿ユリ子・古賀良和・高木禎晋・古賀圭一郎

### 理事長・副理事長



副理事長 理事長 副理事長  
上里利香・増本律秀・宮岡 誠

### 監事



酒瀬川秀穂



木林純子

### 広報調査部



部長  
青柳徳晃・西尾恭介・楠野吉弥・吉岡大作・綿末明子・川崎 若

### 予算運営管理部



部長  
長尾真司・巖水瑠華・福田陽子・立石洋行

福岡市私立保育士会  
会長挨拶

平野 理江



再任いただき、  
4期目を務めさせて  
いただきます。

福岡市保育士会  
は昭和31年に設立  
した全国保育士会の下部組織となり  
ます。

全国保育士会は、日保協・私保連  
と並び保育三団体の一組織である全  
国保育協議会と同様、社会福祉法人  
全国社会福祉協議会に属している組  
織の一つです。全国で18万人超の保  
育士・保育教諭や栄養士、看護師、  
調理員等が「子どもたちの真の幸福  
のために保育は手をつなぎ立ち上げ  
ろう」の創設の想いに賛同し、会員  
となっております。「保育所保育指  
針」や「幼保連携型認定こども園教  
育・保育要領」をバイブルとし、全  
国保育士会が策定した「全国保育士  
会倫理綱領」を行動指針として、高  
い倫理観に裏づけられた専門的知  
識、技術及び判断をもって子どもの  
保育および保護者への保育に関する  
指導を行っている保育関係者の組織  
です。

福岡市私立保育士会は、主任・主  
幹を対象とした研修やキャリアアッ

プ研修、区および給食等の研究活  
動、保育協会と連携して取り組む活  
動、などを行っています。保育協会  
からは、運営のみならず、他都市で  
開催される大会や研修会への参加、  
グループに分かれて実施している研  
究活動に対し補助金をいただいで、  
活動を物心両面からご支援いただい  
ています。前会長のときにご縁をい  
ただいた、すこやか母子未来ネット  
ワーク、さまとのコラボ研修も充実  
を増しています。自らの人間性と専  
門性の向上に努めるために行う研修  
や活動の充実・発展は福岡市だけ  
は実現不可能です。こうした周りの  
皆様の支えがあり、そして全国にい  
る仲間がその想いと力を結集させる  
ことによって、実現するものだと思  
じます。

今年の全国大会は、全国保育協議  
会・全国保育士会の一体化で開催さ  
れます。組織の強化は保育の質の向  
上、全ての子どもたちの幸せに必ず  
通じるものだと思信しています。

これからもご支援、ご指導賜りま  
すよう、どうぞよろしくお願い申し  
上げます。

福岡市私立保育士会役員名簿(令和7年度)

会 長	平野 理江	(第2中央保育園)	庶 務	腹巻 麗華	(アスク東比恵保育園)
副会長(総務部)	浦谷 範子	(西新保育園)	庶 務	中村 文	(東はこぎき保育園)
副会長(キャリアアップ研修)	中尾 みゆき	(わかひさ保育園)	庶 務	木原 由衣	(栄光保育園)
副会長(一般研修)	寺本 葵	(リトルワールドあゆみ保育園)	保 育 の 友	丹野 和歌子	(しゅんよう保育園)
会 計 リーダー	岩瀬 三津	(第二オーブ保育園)	保 育 の 友	富永 裕美	(はこぎき保育園)
会 計 副リーダー	木塚 広子	(高宮くすくすの丘保育園)	保 育 の 友	渡邊 麻衣	(ゆめの森こども園)
会 計	三田村 法子	(室見ガーデン保育園)	研 究 会	松下 とし子	(野芥保育園)
会 計	末武 あき子	(アイグラン保育園千早)	監 事	玉井 博子	(玉川保育園)
会 計(補助金)	黒崎 明子	(ニチキッズ下長尾保育園)	監 事	小幡 悦子	(星の原団地保育園)
会 計(補助金)	江口 和代	(いとぼっぽ保育園)			
企 画	中村 知美	(弥永保育園)	※福利厚生共済委員 (木戸 美果、佐々木 美和、栗屋 直美、関本 美奈 ~2028/4/30)		
企 画	草野 和代	(はかた愛育保育園)	※保育園幼稚園保健部会部員(平野 理江、小幡 悦子)		
広 報	福崎 裕喜	(南片江こども園)	※県保協保育士会 評議員・常任委員(小幡 悦子)		
運 営	山浦 加奈代	(西都保育園)	※全国食育推進委員(森川 美香)		
運 営	和泉 茜	(フライトこども園福岡東比恵)			

## 春の叙勲受章 おめでとうございます

### 祝 瑞宝双光章



社会福祉法人 皆輪会  
つくし保育園  
園長 田代 幸子

このたび、春の叙勲に際し、瑞宝双光章の栄に浴することとなりました。

長年にわたり保育の現場に携わってまいりました私にとりまして、今回の受章は身に余る光栄であり、これもひとえに保育協会役員の皆様をはじめ、会員の皆様からの温かいご指導とご鞭撻の賜物と、心より感謝申し上げます。

園長として過ごした日々の中で、多くのご家庭から入園のお申し込みをいただき、園舎の増改築を重ねながら、できる限り多くの地域の子どもたちを受け入れてまいりました。保護者の皆様、地域の皆様の温かいご理解とご協力があってこそ、保育の充実を図ることができたものと、あらためて深く実感しております。

このたびの受章を励みに、これからも未来を担う子どもたちのために、一人ひとりの心に寄り添いながら、健やかな成長を支える保育に、微力ながら尽力してまいります。

地域に愛される保育園として、職員とともに歩んでまいりますので、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 就職フェアが10年目を迎えて

広報調査部長 楠野 吉弥

福岡市保育協会では、毎年『就職フェア』を実施しています。本年度も6月28日（土）と8月23日（土）の2回にわたり、アクロス福岡イベントホールで開催しました。福岡市の保育事業の魅力を広くアピールできる場所として、100か園以上の市内の保育園・こども園が参加し、2日間で延べ500名以上の養成校の学生をはじめとする、保育士を志す方々にご来場いただきました。

この『就職フェア』ですが、2015年に第1回を始めました。「保育士就職フェア」「ホイクエン@Summerfes」等、その折々で名称を代えながら、本年度でちょうど10年目を迎えました。この10年間でいろいろと変化してきましたが、初期のころとは違う大きな変化を二つご紹介したいと思います。

まず一つ目に、専門学校生の参加者割合が大きく増えたことです。2015年の第1回のデータをみると、参加者の割合で、4年生大学及び短期大学が70パーセントを超える数字でしたが、本年度の8月開催を見ると、専門学校の学生の参加が多くなっていて50パーセントを超えています。ちょうど2015年ごろから



全国的に専門学校の定員数が増えているので、それに伴って増



加したと考えられます。学校によっては「就職フェア」の参加を学校活動の一環として行っているところもあり、この企画に対して積極的なアプローチが見られるようになりました。

二つ目には、来場者増を狙った景品です。現在も行われているスタンブラリーですが、当初は、青年部の園とお付き合がある業者さんから商品を提供して頂きながら、少ない予算の中で景品をそろえて、ガラガラ抽選機で1等、2等などを決めるやり方でした。それなりに楽しく、回を重ねることに理解も得られて、良い景品も登場するようになりましたが、コロナ禍を経て現在は、大手コー



ヒーチェーンのギフトカードの配布というところに落ち着きました。1等の鐘の音が聴けなくなっただけは寂しいですが、養成校の就職課から聞

いた話では、フェアが終わった後に仲良いメンバーが集まって、そのギフトカードでおいしいコーヒーを飲みながら、それぞれまわった園の情報交換をしているそうです。

回数を重ねて少しずつ改良を重ねながら進化をさせていただきましたが、最初から変わらないところは、就職フェアと銘を打っておきながらも、まずは「保育園と保育士の魅力を発信する」ことが、何よりも一番大事だということです。人口減が叫ばれる中、それはそのまま将来の保育士の減少につながります。子どもたちのために、少しでも多くの人にその魅力を伝えられるようにしたいという想いは、10年前からずっと変わりません。

今回も参加園の皆さんのご協力のもと、たくさんの方にご来場いただきました。当協会の『就職フェア』は、業者主催のフェアやブース出展と比べると厳しいルールがありますが、そのルールによって、初めて社会に出ることに不安な学生たちが、安心して来場できる環境作りになっています。またそのことで養成校からも信頼を得て、とうとう授業の一環として捉える



学校も出てきました。今後も、保育士になりたい人の裾野が大きくなるように企画立案をしていきたいと思えます。これまでの皆様の協力に心より感謝いたします。

## 第9回九州保育三団体 研究大会沖縄県大会

第9回九州保育三団体研究大会沖縄県大会が、7月17日(木)～18日(金)にかけて、那覇文化芸術劇場なはくとを全大会場として、開催されました。

福岡市からは、第5分科会と第7分科会にそれぞれ東区の光和保育園と西区のかほちや畑保育園が発表しましたので、ご紹介いたします。

### 光和保育園 第5分科会

第9回九州保育三団体研究大会沖縄県大会の第5分科会にて発表をさせていただきました。

分科会のテーマは、「子どものより良い育ちと安全・安心の環境づくり」にむけた関係機関とのネットワーク」だった。

新年度になって発表が決まり、関係機関とのネットワーク作り特に取り組んできたわけではないので、現在行っている関係機関との連携についての発表を行った。

発表は三つの柱で行った。一つ目は、小中学校との連携についてだ。

ここでは、福岡市は、1小学校区に複数の保育園や幼稚園が設置されており、統一した連携がとりにくいこと。特にコロナ禍以後、児童と園児、職員同士の交流も十分でないことを実態として述べ、園側からの小中学校への働きかけの重要性を訴えた。

特に、夏期休業中の交流は学校側も受け入れやすいことを提唱した。

二つ目は、行政機関との連携についてだ。これについては、ケース会議について発表した。ケース会議は、区役所の子

育て支援課が中心になって、関係機関に働きかけ、問題の子どもや家庭の支援について話し合う場で、問題解決に繋がることが多い。

関係機関も、行政関係各機関、訪問看護・ヘルパー関係施設、障がい者機関相談支援施設、保育園職員など他機関に渡り、具体的支援策を話し合うことができると。

具体例を挙げて事例を述べたが、福岡市はよく対応してくれている。対応がいとの意見感想が出た。それはやはり、行政への強い働きかけの結果ではないかと回答した。

三つ目は、療育、特別支援教育関係機関との連携についてだ。

これについては、サポートが必要なし、療育に通っている子が多い中、療育施設との連携の重要性を訴えた。

療育機関に通っている園児については、それぞれの施設で行われている療育内容を把握し、できるだけ保育園でもその内容を実施することが有効だったことを発表した。



また、福岡市は発達教育センターがあるので、就学に関して不安を抱えている保護者に対し、発達教育センターとつなぎ、進学の相談が十分にできるようにしていることも報告した。

以上簡単ではあるが、発表させていたいただいた。どの保育園でも行っている普通のことかもしれないが、今回、このような場に立たせていただき、改めて関係機関との連携について見直し、よりいっそう関係機関との連携の必要性を感じているところである。

### かほちや畑保育園 第7分科会

第7分科会は、保育の社会化にむけて保育の営みをいかに社会に向かつて発信するかをテーマに行われ、かほちや畑保育園は、「子育てのエンパワメントを旨とした保育の社会化」という題で発表がありました。

現代の若者夫婦は、社会構造や体験不足等から様々な困り感を抱えており、そのような保護者の困り感に対して私たち保育者はどのように寄り添うのかという問題提起があり、様々な子育ての情報が溢れるなかで、正しい情報を、受け入れしやすい言葉かけで保護者に伝え、そのことで保護者が本来持つ、子育てに対する力を引き出すことに繋がる旨の話をされました。

保育園内で子ども達と関わっている様子や職員がその事について研修している様子を動画を通じて見せてもらい、人となりがつながる取り組みの一例として、アンガーマネジメントを学ぶ機会を作り、それを園児や職員だけでなく保護者にも研修してもらい、子育て力を引き出すためにより良い環境を作るようにしていました。

保育者が日々行う「子ども一人一人に寄り添った保育」は、「保護者一人一人の子育てに寄り添う」ことでもある。という園長先生の想いが伝わる発表でした。

質問では、園名の由来などフランクな内容もありつつ、アンガーマネジメントを受けた子ども達のその後の変化について聞かれ、短期間で変化が出たかどうかについては整理する必要があるが、将来に亘って必要な能力なので、統計などを取りながら続けて行きたいと答えられました。

助言者の沖縄キリスト教短期大学地域こども保育学科特任教授、吉浜幸雄先生より、子ども向け、保護者地域向け、職員向けの取組として素晴らしい実践であるという評価がなされていました。



# 私の園の取り組み

## 認定こども園リアンかしはら保育園（南区） 西尾 恭介

保育の現場では『ノンストップ保育』と言われるほど、職員が気を抜けない時間が長くなりがちです。特に担任業務をしていると、記録や準備、振り返りをする時間が十分に取れず、保育後に仕事が残ってしまうという声も聞かれます。そんな中、私たちの園では、職員が安心して「休む・整える」ことができる環境づくりを大切に、ノンコンタクトタイムの確保に取り組んでいます。

まず始めたのが『作業デー』の導入です。これは担任がクラスに入らず、計画や記録、行事準備、環境整備などに専念できる日を設ける取り組みです。月に一度程度、他の職員が協力してクラスを担当し、保育をカバーします。その間、安心して作業に集中できる時間が保障されることで、「落ち着いて振り返りができる」「自分のやりたい保育ができるようになった」といった声が職員から上がっています。子どもと向き合う時間だけでなく、その背景にある“保育を支える時間”があることで、より深いまなざしと余裕をもって関わられるようになったと感じています。

また、職員が確実に休憩を取れるよう『休憩表』の整備を進めています。これまでは「空いていたら休む」「休めそうな人が休む」といっ

た曖昧な状況もありましたが、時間ごとの休憩担当をあらかじめ決めておくことで、無理なく交代で休める体制が整いつつあります。日々の中で職員同士が声をかけ合いながら、「今、休んでいいよ」「次は交代しますね」と自然



にフォローし合える雰囲気生まれ、休憩を取りやすい職場づくりへとつながっています。園全体で「誰か一人が無理をしない」仕組みを意識することが、安心して働ける土台につながっています。

このような取り組みを通して、園全体として「誰かがずっと頑張り続けられない」環境づくりを目指しています。職員が心にゆとりを持って働けることは、結果として子どもたちの安心や安定にもつながっていくと感じています。休憩や作業の時間を「取ってもよいもの」ではなく、「取ることが当たり前のもの」として捉えることで、今後も持続可能な保育環境を築いていきたいと考えています。

## くまのご保育園（早良区） 山口 健太郎

くまのご保育園（福岡市早良区次郎丸）では、「子どもが楽しい、そして保育者も楽しい」と感じられる保育を大切にしています。行事も、“やらなければならないこと”ではなく、“やってみたいこと”から始まるのが、当園の特色です。

たとえば、毎年行う田植えや稲刈り体験は、地域の方々と連携して実施しています。土の感触や季節の変化、稲の成長を肌で感じる体験は、子どもたちにとって貴重な学びとなります。保育者も「この活動を通して、どんな経験をしてほしいか」と考え、準備や構成を話し合いながら取り組んでいます。

また、園内でのピザづくりやみそづくりも、保育士の発案で生まれたものです。くまのご農園で育てた野菜を使い、収穫から調理、試食まで、子どもたちの「やってみたい!」という気持ちを出発点にしています。みそづくりでは、大豆をつぶし、熟成を待つという過程も、食への興味や時間の感覚を育む大切な体験となっています。

こうした行事は、単なる食育や地域交流にとどまりません。子ど

もたちの“わくわく”に大人も一緒に向き合う中で、喜びや驚きを分かち合う。その過程こそが、くまのご保育の本質だと感じています。



さらに、保育者同士の協働や対話の機会も大切にしています。一つの行事をつくり上げる中で保育観を語り合い、支え合う関係が自然と育まれていきます。

これからも、くまのご保育園は「子どもと大人がともに楽しみ、育ち合う園」であり続けたいと考えています。日常の中の小さな気づきを大切にしながら、保育の可能性を広げていきたいと思っています。

## 編集後記

機関紙『保育ふくおか』が電子ブック化になり、3年目を迎えます。そこで、編集委員になった機会に、改めて昨年度の電子ブック化された記事を読み直しました。まず、表紙を飾る1枚の写真に目を引かれました。2歳児くらいの子どもと保育士の子です。保育士が自分の鼻を指さして、「○○ちゃん。鼻水が出てるよ。」「あっ、ほんとだ。鼻水出てる。」「ティッシュ持ってきたよ。」「自分で拭くね。いつも僕を見てくれてありがと。」「こんなやり取りをしたのだと思いますが、二人の間には温かい信頼関係が築かれています。他に3枚の写真がありました。どれも子ども達の健やかな成長やそれを見守る保育士の姿があり、表紙を見るだけで心が温かくなりました。

表紙をめくり、8ページある記事の内容を読みました。学生の保育士志願者が減少している養成校の課題や取り組み。就職フェアの欄では、学生がこのフェアで知りたいベスト3は、人間関係、給与などの処遇面、保育方針ということ。また第2号には、認定こども園に移行した現在の状況が記載されていて、今後移行する保育園の参考になるものでした。他にも、4歳児の視力検査に向けての情報や保育研究大会の見所などが端的に書かれていました。機関紙編集委員になったことで、改めて今欲しい情報がたくさん掲載されていることに気づきました。皆様、ぜひ『保育ふくおか』をご愛読ください。

(機関紙編集委員 友納 恵)

～感想やご意見はこちらにお送りください～  
【保育協会メールアドレス】kyoukai@hoiku.or.jp